

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503882		
法人名	株式会社ケアプロダクツ		
事業所名	グループホームライブラリ藤野		
所在地	北海道札幌市南区藤野3条4丁目15-60		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成28年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である『幸輪』に掲げているよう、幸せの輪を広げ楽しく有意義な時間を共に末永く過ごせるよう支援することを念頭に、入居者様へのサービス提供を目標にしています。
また、認知症を正しく理解し、残存機能を最大限活かせるよう環境作りに努め、より良いサービス提供につながるよう社会的責任を認識し、介護サービスに携わる者として研鑽かつ健全な運営に努めます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani%u%ae&JigvosyoCd=0170503882-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年12月18日

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、意味を理解し、念頭に置いて介護にあたるよう心がけてはいるが、十分実践できているとは言えない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	日常的な挨拶、年2回の交流会への参加、地域のイベントへの参加、事業所での避難訓練への協力を仰ぐなど、日常的に交流が図れるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、認知症についての相談や意見を求められた際には、出来る限り対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では主に、事故報告・行事報告・近況報告を行っている。その際の、意見やアドバイスに関しては、検討しサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密ではないが、連絡を取り実情の報告や相談を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度内部研修として、身体拘束に関わる研修を行い、身体拘束をしないケアを実践している。夜間帯に関しては、防犯の観点から内戸・玄関の施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度内部研修として、虐待に関わる研修を行い、理解を深めたうえで防止に努めている。また、見過ごされる事が無いよう、職員それぞれが注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度、成年後見制度に関わる内部研修を行い、必要時に活用できるよう学んでいる。内容が難しく、細部までの把握は出来ていないが、必要性を感じる入居者様がいらっしゃる場合は、適所へ相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时・契約時に十分な説明を行っている。また、入退去時や生活している中で、不安や疑問点がないか確認し、理解・納得を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置及び、内外部苦情相談窓口の掲示・記載（契約書）を行っている。入居者様に関しては、想いを引き出せるような会話に努め、意思伝達の難しい方に関しては、思いを汲み取れるよう努めている。ご家族様に関しては、面会時等に会話の機会を設け、意見や要望を伺ったり、会話の中から思いを汲み取るよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時等に意見や提案を聞く機会を設け、運営に関する意見や提案があった場合には、会社へ報告。 また、日々の会話や個人面談等から職員の意見を聞き、反映するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談にて個々の努力や実績、仕事に対する想いや意見を聞き取り・把握し、職場環境・条件の整備に努めており、環境や条件は向上している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月違う題材の内部研修を開催。他に、現状必要な知識を広げられる外部研修に関しては特に、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在まで、社内の事業所同士の連携をとる事も容易ではなかったが、徐々に出来てきている。今後は活動を活発にし、質の向上を目指したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前後・入居の段階で、困っている事や不安な事を聞き取り、少しでも安心して生活して頂けるよう、環境を整えている。また、ご本人に合わせた関わり方に配慮しながら、出来るだけ会話を多く持ち安心して生活できるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や契約時、グループホームで生活するにあたっての困っている事や不安な事、要望を聞き取り、安心して利用できるよう努めている。また、入居後に関しては、面会時にお話しする機会を設け、良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時・入居時・入居後、現状に即した必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き、出来る事は出来る限り行って頂いている。介護する側・される側と言う関係性にならないように、入居者様と協力しながら毎日を過ごせるよう心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、ご本人を共に支えていく事を目的とした関係づくりを行っている。些細な出来事も情報交換し、共に悩み、相談しながら、本人を支えていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の方が来られた場合には、気軽に来て頂けるよう声をかけさせて頂くも、認知症の進行や高齢(知人・友人)のため関係が途切れがち。場所によってはご本人の希望があれば、馴染みの場所へ行くことも可能。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が関わりを持てるよう、間を取り持つなどし、孤立しないよう支援している。支えあいながら生活ができるよう、入居者様同士が協力し合いながら、家事活動等を行えるような支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、希望があれば相談・支援を出来る限り行いたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を聞き取れる方には直接聞き取り、意向に沿った支援に努めている。また、聞き取りが困難な方に関しては、ご家族様からの意見や要望を踏まえ、ご本人の会話や行動から汲み取ったり見極め、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ある程度の情報を聞き取っている。また、入居してからも、ご本人やご家族様との会話を大切にし、把握・記録に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や、申し送り会議時、職員間での情報交換等で、それぞれの職員が現状の把握に努め、現状に即したそれぞれの生活ができるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族同席のもとでのプラン作成は出来ないが、本人の意向・ご家族の意向を念頭に、職員・計画作成担当で現状の分析・課題を抽出し、本人がより良く生活できるよう、現状に即したプランの作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入、申し送りや職員間での些細な会話等で情報を共有し、ケアプランの見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせた対応ができるよう努めているが、希望の種類によっては難しい場合もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は乏しいが、近所の公園の利用や、私有地を利用した菜園・収穫祭、町内会や近隣のイベントごとへの参加は積極的に行っている。充実した生活ができるよう、さらなる地域資源の把握に努めたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様から、今まで利用していた医療機関を利用したいという希望がない場合には、当事業所の提携先の病院の往診を受けて頂いている。月2回の往診に加え、緊急時の対応・検査・入院対応(場合により入院先の紹介)を行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師は、常に連絡が取れる体制になっている為、その時に必要な対応の指示を仰ぐことができる。また、提携先の病院でも、相談・救急対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院による負担や、短期すぎる入院による不安等がないよう、病院との情報の交換・共有に努めている。提携先の病院とは、関係づくりは行えているが、提携外の病院とはなかなか関係づくりができていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、会社としての指針はあるが、未だそのような状況の方がおられない。また、入居時にご本人やご家族に看とりに関してのお話をさせて頂くも、その時になってみないと何とも言えないとの声が多い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応方法は、年に1回消防の方に来て頂き、指導して頂いている。また、高齢者施設で起きやすい事故や急変時の対応方法等は、看護職員に研修を開いている。また、職員自ら外部の講習に参加する事もある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1度の頻度で夜間想定火災避難訓練を行っている。また、年に1度町内会・消防の方々の協力のもと、避難訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の尊厳を守ることを前提として、その方に合った声掛けや対応、理解できる言葉(方言や古い言い回しなど)を使っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が全て決めてしまうのではなく、どうしたいのかを働きかけ、尊重するようにしている。また、自分の思いをうまく表せられない方に関しては、出来るだけ想いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムや時間感覚を崩さない事を目的とした決まり(食事やレクの時間等)はあるが、強制はせず、あくまでもご本人のペースでの生活をして頂いている。しかし、状況や本人の極端な希望によっては、希望に完全に沿う事は難しい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方に関してはご本人にお任せし、行えない方に関しては、季節に合う物やご本人の好み(色・形等)に合わせ選ばせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や準備・後片付けは、出来る範囲で行って頂いている。また、月に何度か調理レクを行い、主に午後のおやつを入居者様と一緒に手作りしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分共に、十分な量が確保できるよう、チェック表を使用し、把握している。それぞれの入居者様の、食事や水分摂取の習慣を把握し、それぞれの習慣や機能、好みに合った摂取の仕方を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、または介助を行い口腔内の清潔を保てるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し、促しや誘導行うなどし、トイレでの排泄の習慣を思い出して頂けるようにしている。また、腹圧等で漏れてしまう方には、骨盤底筋体操を行って頂けるよう、声掛けしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様にあった乳製品の摂取やオリゴ糖の使用等により薬剤を使用した排便が減っている。また、水分量の確保、体操や歩行練習・個別運動への参加促しを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴日や時間帯は決まっているが、ご本人の体調や気分、予定等を考慮しながら、変更は随時行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分の意思で行動できる方に関しては、自由にして頂いている。意思を伝えられない方に関しては、体調や病状に応じ、生活リズムを考慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を服薬しているかの把握するよう努めているが、全ては把握しきれていない。新しい薬が処方された際には、副作用も含めて確認し、変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	多種多様なレク内容の検討や、家事活動に参加して頂き役割を持って頂く等支援している。また、ご本人にとって充実した生活ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、畑仕事などで戸外へ出られるような工夫はしているが、その日急に普段行けない場所の希望となると、ご家族様・職員数・時間の都合がつかず、支援できない場合が多い。希望がある場合には、あらかじめ予定を組んで支援する。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力や希望、ご家族様の意向によって必ずしも所持はしていない。外出の際には、出来るだけご自分で使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある際には直接ご自分で電話や手紙を書いて頂き、希望があってもうまく話せない場合やうまく字をかけない場合は代筆する等、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日の掃除にて清潔を保持している。快適な状態で過ごせるよう、温度・湿度、陽の入り方等に配慮している。また、レクレーションの一環で季節の装飾を入居者様と作成し、季節感を出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の構造上、共用空間で一人になれる空間は無い。各居室以外では、食堂兼リビングしかない為、気の合った者同士だけの空間を作ることも難しいが、気の合う入居者様同士で近い席に座って頂く等の配慮を行い、居心地の良い空間を作れるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでの生活に少しでも慣れるよう、また、入居後慣れない環境での落ち着ける場所として、使い慣れたものや好みの物、思い出の物等を出来るだけ持ちこんで頂くよう説明させて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、手すりも完備。また、お手洗いや各居室には標識・表札を貼り、分かりやすくしている。また、動線上に余計な物や危険な物を置かないよう注意している。		